
入学式。

江美里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
入学式。

【コード】
N9982H

【作者名】
江美里

【あらすじ】
ある、女の子のある時期の悩みです。あなたなりのラストを考えてほしいです。

(前書き)

ゆっくり、お読みください。下手ですけど。

はあ。憂鬱。

とある女子中学校を受験した私は、一人でこの学校に来た。始まる時刻の早いこの中高一貫校は私の近くからここまで来る子は誰もいない。

つまり、私は今までの友達と別れて来ることになるわけ。

お別れパーティと称したカラオケやらをまあ色々したりして、

「また会おうね。」

と、別れる。まあ、もう会うことはないんだろうな。ちょっとずつ疎遠になるものなんだろう。母親からも同じこと言われたし。

また会いたい、ずっと仲良くいられる、なんて考えている私を冷めた目で見ている私がいる。

「どうせ、今から友達と仲良くなっちゃうんでしょ。」
と、いう私が。

制服はブレザーだけど、リボンも何もない。はっきり言うと地味。バックは別に何でもいい。規定のバックはあるにはあるけど、だいたいの子がどこか別のところで買ったと思われるものだった。

教室には、40人＋先生の机とイス。先生のは教卓。

黒板は前と後ろに二つずつ。チョークも黒板消しもちゃんと用意されている。

そして、振り分けられたクラスに来た私は無難な自己紹介を済ませて、解散になる。

『今日、会える?』

私の学校は入学式は遅くて、皆は学校に慣れたころだろう、メールを打つ。

いつもなら何があるうとすぐ鳴り出す着信は、次の日の夜になっても鳴り出さなかった。

起きると、返信が来ていて、見てみれば

『ゴメン。無理なんだ。いろいろあるの。』
たぶん、新しい友達と遊ぶ予定があるのだろう。
わたしは、どうしよう……………。

卒業の時、後悔せずに新しい友達と仲良くやっているのだろうか。

中1の最初の頃の、私の日記にはこんなことが書かれていた。

夏になっても、秋が近くなっても、そんなの、いまだ分からないから……………。

卒業する時の私にこの疑問をぶつけないといけないんだろう。

でも、今の私は今の生活にも慣れてきている。今の友達といて、楽しいと感じられる。

私は、昔の友達も今の友達もどっちも大事にしたい。わがままな私
の世界のお姫様は、そう仰っているのだから。

未来の私の気持ちなんて、分からないけれど。

あの頃の私へ。今は、大学1年のあの頃です。

今の私は、今から入学式をするつもりです。1人だけの、入学式です。

あなたがどんなラストに物語を導くのか、分かっている私はネタばらしなんてしたくありません。私は今でも、私に対してはわがままな王女様なんです。

ラストまで、辿り着くあなたを待っています。

(後書き)

ぜひ、この物語にこれを読んだあなたなりのラストを作ってください。
い。

どついう結論をこの子が考えたのかは今の私には分からないかもです。

オリジナルの結末を考えて下さったら、ぜひ、教えてくださるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9982h/>

入学式。

2010年12月10日23時05分発行